



寒い朝
山の中腹から
真っ白くたちのぼる水蒸気
あれが炭鉱の排気口
父さんたちの息なんだよ

闇を掘る Mining the Dark

ドキュメンタリー映画 ■ 16mm・カラー・105分

製作 ● 「闇を掘る」製作委員会

協映

森の映画社

監督 ● 藤本幸久

撮影 ● 小林 茂

録音 ● 久保田幸雄

音楽 ● あがた森魚

演奏 ● 楽コーターカルテット

ナレーター ● 小林三四郎

編集 ● 藤本幸久

田代陽子

小林 茂

ネガ編集 ● 清水千恵子

松山比呂子

うた ● 波多野信子

「炭鉱の子供の子守唄」

「三番方節」

タイトル原画 ● 早川季良

録音スタジオ ● 協映

現像所 ● ソニーPCL

フィルム ● コタック

レーザーサウンド ● ヨコシネD.I.A.

タイトル ● シネブレーション

協賛 ● ハブリックセンター

全国じん肺患者同盟北海道本部

連合北海道



芸術文化振興基金助成事業

Illustrated: Noda Satoko

人間に閉山はない。ひとりひとりの中に炭鉱は生き続けている。



同じ炭鉱で暮らした三家族ー。
波多野さん一家、三田さん一家は
炭鉱の町・夕張を離れた。
伊藤さん一家は夕張に残った。
——今も一年に一度、炭鉱長屋の
あった場所に帰ってくる。

『魚屋行ってもさ、頭とっておろして——』

とか、しゃべれないと買えないんだよね。』



波多野信子

東京生まれ。音大ピアノ科卒業後、劇団の製作の
仕事につく。夕張公演の際、炭鉱マンの波多野賢
才さんと出会い、結婚。炭鉱長屋に持ってきたグ
ランドピアノの下で、3人の子供を育てた。閉山
で炭鉱を離れてから音楽活動を再開。自ら作詞作
曲した炭鉱の歌をコンサートで歌い始める。

『自分の身に置きかえて考えるわけだ。坑夫ってやつはね。』



永井幸一郎

採炭現場の責任者を長年努め、その仕事ぶりから
「鬼の永井」と呼ばれた。17歳の時、初めて働いた
樺太(サハリン)の炭鉱で、育ててくれた祖母と生
き別れとなった。戦争が二人を引き裂いたのだ。
五十年後、祖母の消息を捜してサハリンへと旅立
った。



早川季良

『石炭にさわっていると、
ずっと現役の炭鉱マンみたいな感じだ。』

18歳から炭鉱夫となり、北海道内28ヶ所の炭鉱を渡り
歩く。43歳の時、呼吸機能を冒す「じん肺」で労災認定と
なり、働くことができなくなる。しかし、長年採掘してき
た石炭への愛着から、石炭を絵の具にして炭鉱の世界を
描き始めた。

『だからもう、家内と二人でじん肺になったのと同じさ。』

坑道を掘る掘進係として長年炭鉱で働くが、定年
の1年前に「じん肺」に認定され、働けなくなる。闘
病生活の中「自分が役に立てるなら」とカメラの前
に身をさらしてくれた。映画完成のひと月後、「じん
肺」で死亡。あたたかく、どんな時も前向きに生
き抜いた炭鉱の男、渡辺さんとは映画でしか会え
なくなった。



渡辺松雄

映画は希望を描くものだ
「闇を掘る」監督 藤本幸久

撮影を始めたのは、一九九五年、北
海道にある空知炭鉱の閉山からだった。
フィルムに映ってきたのは、炭鉱で働
く男たちの、それまでに見たこともな
い思ひ詰めた顔だった。
ドキュメンタリーは希望を描くもの
だと、僕は固く信じている。たとえれば、
この映画で描くべき希望はどこにある
のだろう。

撮影を始めて二年、四年とたつにつれ
人間が見えてきた。どんな困難の中でも
前向きに生きようとする炭鉱の人間た
ちのエネルギーが見えてきた。閉山し
てからも、同じように、人と深く関わ
って生きる人間たちの姿が見えてきた。
この映画を観る人が、この映画に登
場する人間たちから、あたたかい風を
感じ取れると確信できるようになった。
それに六年の年月が必要だった。

二〇世紀末、個はばらばらとなり、
ひとりひとりが「私たち」を失ってき
ない時代となった。しかし、炭鉱で生
きてきた人々の中には「私たち」が
今もしっかりと思っている。そして、
それが映画の希望となった。

遅しさと表裏一体にある謙虚さ
「闇を掘る」音楽 あがた森魚

今回、映画「闇を掘る」の音楽を担当
することで、僕自身は二〇世紀には出会
うことのなかった炭鉱に暮らし、働いて
いた実に多くの方々に出会うことができ
ました。

二〇世紀とともに炭鉱は、消えようと
しています。けれども、この炭鉱に生き
た人々の辛抱強く、謙虚で、おあらか
なエネルギーにこそ感銘をうけました。
そして、この作品を通じて、炭鉱に暮
らした人々の「遅しさと表裏一体にある
謙虚さ」に触れることが出来たとおもい
ます。

炭鉱や二〇世紀の北海道は、今、まさ
に消え去ろうとしています。この映画
「闇を掘る」に参加して、二〇世紀をつ
くったそいう人々のエネルギーによつ
てこそ、二十一世紀はひらけていくのだ
とあらためて確信しているのです。

屍の向こうにある
情緒を越えた叙情 映画監督 崔洋一

「闇を掘る」の監督・藤本幸久とは、何年か前に夕張
ファンタスティック映画祭サマーセミナーののりに会つ
たのが最初である。すでにその時、藤本は「闇を掘る」
の撮影にかかっており、セミナー受講者としてではなく、
作品を持つ監督として出会っていた。
意外と思われるかも知れないが、監督同士の対話なん
て、そう大した話をしていないわけではない。ましてや、
自作をどうと語るなんて、生理からして気恥ずかしい
ものだ。が、藤本は違っていた。

凡百の作家とはあきらかに差別化できる自己存在が、
ある種映画監督が一般として持つ作風を、気分を越えて、
作品そのものとして藤本が屹立していたのである。それ
は、藤本が訥々と語る「炭鉱ハヤマ」の累々たる屍の向
こうにある、ないしは見えてくる情緒を越えた叙情が、
残酷ではあるが美しい風景だからだ。

もう、テレてる場合じゃない
上々颱風 紅龍

顔がいい。まず顔がいいのだ。久しく会っていない顔
がそこにあった。もう僕は、人と向き合い、顔を見つ
め合うことをさけるようになっていたのだ。
言葉が発する時の、ためらいと恐れ、迷いがスクリー
ンに映し出された顔から、そして恥じらい、はにかみが
見える。哀しみ、悔い、怒りが見える。
人と向き合うことがしんどいこととして、誰もか、も
うやめようぜ、と言いつけてからもうずいぶん時間がた
つたような気がする。
もう、テレている場合じゃない。もう視線をそらして
いる時ではないのだ。顔はそう言っている。

記憶は肉体にしか存在しえない
上々颱風 白崎映美

炭鉱(ヤマ)は山に還つたとしていた。記憶は。上々
颱風はテレビの取材で空知の炭鉱と巡り合い、様々な場
所を訪ね、たくさんの人達と出会った。九〇才を越え、
取り壊し直前の炭鉱住宅に一人で暮らしつつや。町
が賑やかだった頃の話をたくさん聞かされたおばあ
ちゃん達。私は今、みんなの名前を思い出すことができな
い。だけど出会ったことを私の体は忘れない。映画にで
てこない幾万幾億の記憶を思った。忘れ去られる出来事。
確かにあった風景。取り残された人々。

記憶は肉体にしか存在しえない。私はこの体で歌って
いきます。映画という力持ちで炭鉱の記憶の力カチを示
して下さった藤本監督。大勢の人にこの映画が刻まれます
すことお祈りします。そして、サハリンでジャイアンツ
の勝利に気を揉む李さんに同級生からの手紙が届きます
ように。

11/17(土) → 23(金) ロードショー

■特別鑑賞券/1400円 12:50 2:50 4:50 6:50
■当日一般/1700円 学生/1400円 高・中・小・シニア/1000円
●チケットぴあ・ファミリーマート・阪急・阪神各プレイガイドにて好評発売中!

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩2分
TEL.06-6582-1416
〈シネ・ヌーヴォのホームページ〉アドレス
<http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/>

シネ・ヌーヴォ

